

高次脳機能障害

理解と対応

〈学校編〉



広島県高次脳機能障害地域支援ネットワーク

目次

はじめに	1
------------	---

高次脳機能障害とは	1
-----------------	---

具体的な問題	2
--------------	---

注意障害への対応	3
----------------	---

★基本的な対応

- ・外出する時
- ・集中する
- ・指示の工夫

記憶障害への対応	4
----------------	---

★基本的な対応

- ・忘れないために
- ・勘違いした時
- ・変更する時

遂行機能障害への対応	6
------------------	---

★基本的な対応

- ・ぼんやりしてしまう時
- ・効率よく作業を進める
- ・いろいろなことを同時にできるようにする

社会的行動障害への対応	7
-------------------	---

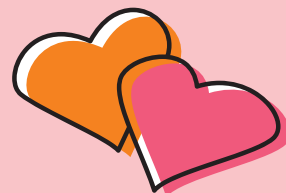
★基本的な対応

- ・社会生活をスムーズに
- ・人間関係をスムーズに
- ・感情のコントロールをする
- ・自覚する
- ・こだわり

具体的な取り組み	9
----------------	---

- ・取り組み方のポイント
- ・学校全体での取り組みについて
- ・保護者と連携した取り組みについて

はじめに



現代医療の進歩によって、事故や脳血管障害による死亡数は減少傾向にあります。しかし、一方では、命はとりとめたものの脳に障害を受け、その後遺症に苦しんでいる方が増加しつつあります。事故による高次脳機能障害は、将来を担う若者や社会の中堅層に多いことが特徴です。そのため、学校や職場などへの社会復帰をめざす方への支援が求められています。

高次脳機能障害は、治療、リハビリテーションにより改善されますが、問題が残ってしまうこともあります。そういう場合には障害者の家族や周囲の方々とスタッフ（専門家）が協力して「社会生活上、問題なく行動できるように対応する」ことが最も重要です。

このパンフレットは、皆さんが会おうと予想されるいくつかの問題場面を想定し、その対応について記述してあります。ここで説明した内容をそのまま適用できる場面は多くないかもしれませんが、本人の能力に合わせて学習内容や環境を設定する際の参考にして下さい。また、障害を理解し、本人に合った接し方をすることで、本人も周囲も気持ちよく過ごすことができるでしょう。

高次脳機能障害とは？

事故や病気などで脳に損傷を受け、記憶力、注意力、計画性などの能力の低下、感情のコントロールが苦手になる、意欲がわからないなどの問題が起きることをいいます。見た目には障害がないように見えることもあるため、なかなか周囲の理解が得られません。また、実際には障害のせいなのに「やる気がない」「無責任」「不真面目」「うそつき」などと誤解されてしまうこともあります。

主な原因

- ①脳外傷（頭部外傷）・・・ 交通事故やスポーツ中の転倒などによる事故、高い所からの転落
- ②脳血管障害 …………… 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血
- ③その他 …………… 脳炎、脳腫瘍、一時的な心肺停止による低酸素脳症など

周囲が障害について知らないと、本人に過度の期待を抱いたり、接し方を間違えたりして問題が大きくなることもあります。適切な対応ができると、本人の能力が最大限に引き出すことができます。原因は様々であり、人によって表れる症状も様々です。同じ人でも昨日と今日とでは状態に大きな差があったり、環境が違うことでできていたことができなくなることがあります。

具体的な問題

注意障害

気が散りやすい。
簡単なミスが多い。
同時に複数のことができない。
複数のものの中から必要なものを選ぶことができない。
ぼんやりしている。

集中できない



記憶障害

約束を忘れる。
場所がわからなくなる。
今見たこと聞いたことが覚えられない。

忘れやすい



遂行機能障害

効率よくできない。
計画を立てられない。
物事の優先順位を決められない。
行きあたりばったりのことをする。

段取りよく
できない



社会的行動障害

気分にもうがある。
イライラしやすく、怒りやすい。
状況に応じた行動が取れない。
相手の気持ちを思いやることが出来ない。

情緒不安定

自覚しにくい

自分の障害を理解できない。
出来ないことをしようとする。
自分の失敗を人のせいにする。
失敗体験が次につながらない。



意欲がわからない。
自分から何かしようとしらない。

気力がない

こだわる

融通がきかない。
1つの事にこだわり続ける。

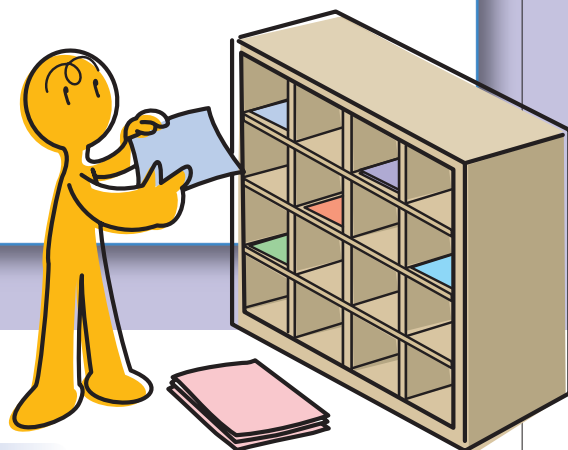
子どもっぽい

すぐに人を頼る。
態度や行動が子供っぽくなる。

注意障害への対応

注意障害への基本的な対応

- ・指導や修正は一つずつ行い、同時に二つ以上の事を伝えないようにしましょう。
- ・指導は短時間で、ポイントを押さえながら、ゆっくりと丁寧に反復して行います。
- ・学習中は一つの事のみ行います。
- ・短時間で休憩を入れるようにします。
- ・他の刺激が入らない環境づくりをします。
- ・注意や集中を促すように、声を出しながら行います。
- ・整理整頓し、どこに何があるかをラベルを貼ります。



外出する時

まず本人の行動を観察して、危ない場面では、すぐにそのことを伝えてください。

次に注意しなければならない点を箇条書きにして確認します。これにもとづいて、何度も繰り返し注意をするように促していくと、同じような状況の中では、上手く行動できるようになっていきます。しかし、状況が変わると、うまく対応できないので気をつけてください。また、休憩をとる等の配慮も必要です。

集中する

集中しやすい環境づくりをしましょう。座席は入り口、窓際、後方を避け、机の上に不要なものを出さないようにするとよいでしょう。開始時間、終了時間や目的をはっきりさせて、それを知らせるようにするなど、“けじめ”を他者からはっきりつけると作業に集中できるようになります。途中で脱線してしまうような時には、「あと〇分（〇時まで）の約束でしたね。終わってから聞きましょう。」というように、引き戻します。上手くいかない時には、本人にそのことを確認してもらい、次への意欲を引き出すように工夫するとよいでしょう。

指示の工夫

簡単な分かりやすい指示にし、同時に複数の指示をすることは避けましょう。指示の復唱を促したり、指示内容の手順や内容を掲示することで指示の理解が良くなるでしょう。

指示を伝える際に「これを持っていこう」「これをそこに書いて」などの代名詞はなるべく使わないようにし、具体的な言葉で伝えるようにするとよいでしょう。



記憶障害への対応

記憶障害への基本的な対応

☆記憶を助ける環境づくり

- ・ノートなどを常に携帯し、伝言などをすぐに書き留めます。
- ・大事な約束や情報は、目の届きやすいところにまとめて貼り付けるスペースを作り、掲示板に書いたり、付箋などで貼ります。
- ・いつも使う物は置く場所を決めて、使ったら戻す習慣をつけます。
- ・どこの場所に何があるかラベルを貼ってすぐに分かるようにします。
- ・大切なものは、身につけるようにします。
- ・時間ごとや日ごとまたは週ごとに、決まった日課に従って生活できるようにします。

☆記憶の代償方法の活用

- ・メモ帳
- ・目覚まし時計やタイマー
- ・カレンダーやホワイトボード
- ・テープレコーダーなどの録音機
- ・電子手帳、携帯電話
- ・付箋

記憶を代償する方法は、一つの方法にこだわらず、生活の中で本人に合った方法を上手く組み合わせて使いましょう。



忘れないために

メモや日記、スケジュール表などを用意し、できるだけ自分で記入するようにしてもらいましょう。初めのうちは、きちんとメモをとっているか、メモの内容は正しいかも確認してください。メモなどを書いても忘れてしまったり、なくしてしまったりしてしまうこともありますので、決まったノートに書く、決まった場所に貼る、終わった用件のメモは捨てるようにするとよいでしょう。

教室が分からない時には覚えるまでの間、入り口から教室等への順路を示す矢印を貼るなどしましょう。忘れ物が多い時にはチェック表を見ながら、持ち物を自分で確認できるようにするとよいでしょう。

勘違いした時

約束していないのに約束したと思いこんでいる時は、本人の好きなことや興味のあることに引き寄せられて勘違いすることが多いようです。好きなことを大切に認めながらも、約束していないことはきちんと伝える必要があります。その際、メモ帳などを確認し、約束していないことを示しながら話すとういでしょう。

変更する時

約束やスケジュールを変更するときにはすぐにメモをとってもらい、内容を確認しましょう。変更前のメモは消す、捨てるなどして、混乱を起こさないようにしましょう。大事な情報は目の届きやすいところにまとめて貼り付けるスペースを作ることもよいでしょう。

また、変更は特に難しいので、伝え方を工夫してみてください。例えば、スケジュールを変更する場合には、変更後の新たなスケジュールについて考えてもらうようにします（例えば、来週の火曜日に行く予定を金曜日に変更する場合、来週の火曜日はどこで何をしているか、次に行くのはいつかを質問する）。強く印象に残ったことは比較的思い出しやすいので、はっきりした口調で言うなど印象に残るように伝えることも必要です。



遂行機能障害への対応

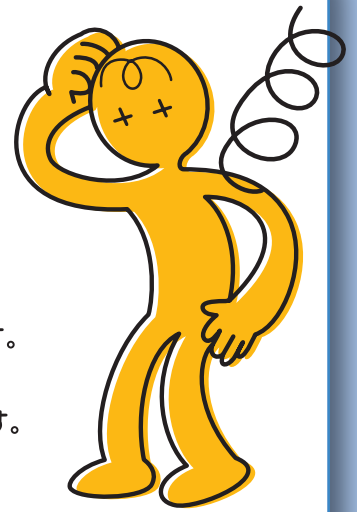
遂行機能障害への基本的な対応

☆行動の開始困難、自発性の低下。

- ・あらかじめ成果を説明しておきます。
- ・行動を具体的な手順にそって説明します。

☆行動が中断する。

- ・「○○をするのでしたね」と手がかりを与え、行動を明確にします。
- ・次第に手がかりを減らして、反復します。
- ・「いつ」「何を」「どうする」と簡単にはっきりとすることを促します。
- ・具体的な手順が書いてあるものを確認しながら行います。



ぼんやりしてしまう時

あらかじめ成果を説明しておき、声かけで始めるきっかけを与えましょう。その後も手が止まらないように、進捗状況をチェックしながら、こまめに声をかけます。ペースが確立してくれば、徐々に声をかける回数を減らしていくようにしましょう。

効率よく作業を進める

手順を文章化したり流れ図にするなどして分かりやすく説明します。分かりにくい時には、説明に十分な時間を割り、反復練習を行いましょう。

手順書を目の前に貼り、常に手順書を見ながら作業するとよいでしょう。ただし、手順書の内容が複雑になり、数ページにわたるようになると、逆効果になることがあります。

いろいろなことを同時にできるようにする

「以前ならできたから」といくつものことを同時にしてもらおうとすると、一つ一つはできるはずのことでも、容量オーバーになり、混乱してしまいます。こういう場合は、少しずつまたは一つずつ取り組めるように、一度に出す刺激の量を減らしたり、周囲が取り組み方を整理してから行ってもらうようにしたらよいでしょう。

本人の処理できる量を考えて課題などを出し、一度にたくさん言わないように心がけましょう。できるようになったら、徐々に刺激の量を増やして様子を見ましょう。



社会的行動障害への対応

社会的行動障害への基本的な対応

- ・興奮、イライラし始めたら、無理やりそれを鎮めようとしたり、説得しようとしないようにしましょう。逆効果となる場合が多いです。
- ・興奮、イライラし始めたら、話題を変えたり席を外してもらって、落ち着くまで待ちます。こちらまで感情的にならないようにしましょう。
- ・目的とする行動が終了したら、賞賛して自信をもってもらうようにします。
- ・賞賛したりして印象づけて、自覚（気づき）をしてもらうようにします。

社会生活をスムーズに

社会的に「不適切な言動」には、後になってから「あの時おかしかった」と指導しても効果はありません。不適切だと感じたその時に、その通りに本人に伝え、今どんな状況なのかを理解してもらいます。「今〇〇だったけど、こういうときに〇〇なのはおかしいんじゃないの?」という具合です。目に見える図や表などを書いたり、その時の会話を紙に書いて見せ、客観的に本人に検討してもらうのも方法の一つです。簡潔に説明し、どんな時、どんな行動をすると良いかを少しずつ理解してもらいましょう。



活動の場面などでは「さあ、それじゃあ冗談はそれくらいにして、今度は真剣に〇〇をしてください」と切り替えるようにすると、その場を上手く進めることができるでしょう。また、とるべき行動について、長々と言葉で説明するのではなく、短いキーワード（「負けても怒らない」「失敗した友達を責めない」など）を活動前や活動中に示すとよいでしょう。

人間関係をスムーズに

「ちょっと変だな?」という言動があったら、その場で、学校のルールを説明しましょう。「常識で判断すれば分かりそうなものだ」と説明を省略せずに、冷静に論理的に説明してください。決して感情的にならないようにしましょう。イラストを見ながら、出来事の意味、場面や状況にふさわしくない行動、相手の気持ちなどについて話し合い、どうすればいいかを一緒に考えることも効果的です。イラストがあると場面や状況がわかりやすくなるようなので活用しましょう。

人間関係をスムーズにしていくためには、大人や少人数の集団から徐々に広げていくとよいでしょう。異性に対し、性的な話をしたり体を触ろうとしたりする時には、きっぱり断ることが大切です。あいまいな態度は、ますます本人をその気にさせますから、毅然とした態度でのぞみましょう。



感情のコントロールをする

怒っている時には、本人も訳がわからなくなっていることも多く、怒っているうちにその理由を忘れてしまうことさえあります。こういう場合、たしなめても冷静に聞ける状態ではありません。「わかるよ」と同調するなどして落ち着くまでしばらく待ち、どういう状況でどうなったのか尋ね、その都度本人と一緒に問題を整理することが効果的です。本人が落ち着いて気持ちを静められる場所を用意することも一つの方法です。イライラしてきた時にはそこに行き、落ち着いてきたら戻るという約束をするとよいでしょう。あまりに感情のコントロールの障害が重い場合には、医師への受診を促すことも必要です。



自覚する

本人ができると言ったことができなかった場合には、「分かったと言ったけどできなかったね。どうしてだろう?」と一緒に原因を考えてください。自分の障害に気づくようになると、指示や注意を素直に受け入れるようになったり、「今混乱しているので、頭の中を整理する時間をください」と自分から言うようになります。

こだわり

まず、初めから全部を変えようとしな、分かりやすいスケジュールや納得できる交換条件（「〇〇が終わったらしてもいい」）を掲示してルールとして取り決める、予定の変更はなるべく避ける、予定を変更するときは事前に伝えることに気をつけるとよいでしょう。重要でないささいなことにこだわって、何度も質問したり同じ事を言ったりする時には、「今何時ですか」「今ここでは何をすべきですか」と場面や状況に気づくような質問をしたり、「その質問は何回目ですか」と前にも同じ質問をしたことを思い出してもらおうなど、本人が考えることができるような質問をしましょう。また、反対にこちらが同じ質問をして、理解しているかを確認し、「覚えているんですね。すごいですね。」などと褒めたりすることもよいでしょう。説明する時には、ポイントを整理して文字や図で書いて確認し、そのメモを本人に渡すとよいでしょう。



具体的な取り組み

取り組み方のポイント

担任一人だけが対応するのではなく、多くの方の協力が必要です。

※教職員だけでなく、生徒にも障害の特徴を正しく知ってもらい、学校全体で取り組む姿勢が大切です。

※学校全体で保護者と連携・協力して取り組むことが大切です。

※他機関との連携が大切です。
(医療機関、福祉機関、相談機関等)



学校全体での取り組みについて

①理解の推進

まずは、高次脳機能障害についての理解の推進を図ることが大切です。

- ☆ 教職員と生徒の理解の推進
- ☆ 事例に学ぶ、気づきの共有 等

②実態把握と情報収集

実態把握を進めます。

- ☆ 本人の長所は何か
- ☆ 本人が困っていること、つまづいていることは何か
- ☆ 主に学習面の課題か、行動面の課題か
- ☆ 友達との関係はどうか、特徴的な行動は何か



③話し合い

支援の内容・方法等について話し合い、計画を立てます。

- ☆ 指導方針、具体的な指導内容・方法
- ☆ 長期目標、短期目標
- ☆ 保護者との連携の内容・方法 等

④必要に応じて専門機関との連携

必要に応じて専門機関と連携します。

- ☆ 医療機関、福祉機関、相談機関、教育機関、大学等研究機関 等

⑤支援の実践

計画に基づき、実践します。

- ☆ 学級内及び個別または小集団での支援
- ☆ 学習面、行動面への支援
- ☆ 保護者、専門機関と連携した支援 等

⑥話し合い

計画・実践等に関する評価をします。

- ☆ 本人の実態の再評価
- ☆ 指導内容・方法の評価 等

保護者と連携した取り組みについて

支援を進めていく上での重要なポイントの一つが保護者との連携です。学校と家庭が車の両輪のような協力関係を築ければ、本人にとってより有効な支援を実施できます。しかし、本人の『つまずき』のとりえ方が学校と保護者とで違う場合があるかもしれません。『つまずき』のとりえ方の保護者と学校とのずれを少なくしていくことが大切です。

①事実を伝える

- ※問題となった事実のみを伝えるのではなく、そのことにどのように対応したか、今後どのように対応するかも伝える。
- ※まとめて学期末に伝えるのではなく、ある程度定期的に細かく伝える。
- ※状況を一緒に見て考える。



②学校の取り組みを伝える

- ※学校全体で話し合いを行い、支援の計画に基づき、実践していることを伝える。
- ※学校が専門機関（教育センター等）で指導を受けたり、相談に行ったりしていることを伝える。

③保護者と情報を共有する

- ※担任（学校）が専門機関（教育センター等）から受けた情報を保護者に伝える。
- ※保護者が希望されれば、相談の場を紹介する。

④保護者と学校とが同歩調での取り組みをすることを確認する

- ※学校は今までも専門機関から指導・助言を受けており、今後も受ける予定であることを伝える。
学校も一緒に取り組んでいくことを確認する。



広島県高次脳機能障害地域支援ネットワーク

医療と福祉の専門的な相談窓口（高次脳機能障害者のための医療福祉の専門施設）

施設名	住所	連絡先電話番号
広島県高次脳機能センター (広島県立障害者リハビリテーションセンター)	東広島市西条町田口295-3	高次脳機能センター 082-425-1455

医療に関する相談窓口（医療に関する相談）

施設名	住所	連絡先電話番号
広島市総合リハビリテーションセンター	広島市安佐南区伴南1-39-1	総合相談室 082-848-8001
尾道市公立みつぎ総合病院	尾道市御調町市124	地域包括医療・ケア連携室 0848-76-1111
(医) 祥和会 脳神経センター大田記念病院	福山市沖野上町3-6-28	地域医療連携室 084-931-8650
(社) 三次地区医師会三次地区医療センター	三次市十日市東3-16-1	地域医療相談室 0824-62-6328
(医) 社団清風会 廿日市記念病院	廿日市市陽光台5-12	医療相談室 0829-20-2300

各市区町の相談窓口（福祉制度等に関する相談）

各市区町名	電話番号	各市区町名	電話番号
広島市中区	障害福祉係 082-504-2588 保健指導係 082-504-2109	庄原市	障害者福祉係 0824-73-1210
東区	児童障害福祉係 082-568-7734 保健指導係 082-568-7735	大竹市	障害福祉係 0827-59-2146
南区	障害福祉係 082-250-4132 保健指導係 082-250-4133	東広島市	社会福祉課 082-420-0932
西区	障害福祉係 082-294-6346 保健指導係 082-294-6384	廿日市市	健康推進課 0829-20-1610
安佐南区	障害福祉係 082-831-4946 保健指導係 082-831-4944	安芸高田市	社会福祉課 0826-42-5615
安佐北区	障害福祉係 082-819-0608 保健指導係 082-819-0616	江田島市	社会福祉課 0823-40-3177
安芸区	児童障害福祉係 082-821-2813 保健指導係 082-821-2820	府中町	民生部福祉課 082-286-3161
佐伯区	児童障害福祉係 082-943-9732 保健指導係 082-943-9733	海田町	福祉課082-823-9207 保健センター082-823-4418
呉市	保健所保健総務課（支給決定以外）0823-25-3525 福祉保健課障害福祉係（支給決定）0823-25-3135	熊野町	民生部福祉課 082-820-5605
竹原市	障害福祉係 0846-22-7743	坂町	民生課民生係 082-820-1505
三原市	社会福祉課 0848-67-6060	安芸太田町	福祉課 0826-25-0250
尾道市	障害福祉係 0848-25-7124	北広島町	福祉課 0826-72-0851
福山市	障害福祉課 084-928-1062	大崎上島町	木江支所内保健衛生課・福祉課 0846-62-0301
府中市	福祉事務所福祉企画係 0847-43-7148	世羅町	保健福祉課 0847-25-0294
三次市	まごころ福祉室 0824-62-6146	神石高原町	保健課健康係 0847-89-3366

その他の連携機関（高次脳機能障害者への支援を行っている団体・機関等）

施設名	住所	電話番号
NPO 法人高次脳機能障害サポートネットひろしま	広島市佐伯区観音台3-5-1	082-943-9303
広島県立総合精神保健福祉センター（パレアモア広島）	安芸郡坂町北新地2-3-77	082-884-1051
広島障害者職業能力開発校	広島市南区宇品東4-1-23	082-254-1766